

今年のお告げは？

旧暦の1月15日にあたる3月2日に、逢坂八幡神社（松河原）で管粥神事が行われました。

「管粥神事」は、江戸時代から続く逢坂八幡神社の伝統行事です。集落から持ち寄った白米と24本の竹筒を鉄鍋で煮て、竹筒に詰まった粥の量で、その年の農水産物の豊凶を占い、粥の量が多いほど豊作とされています。

各集落の区長、総代の皆さんが見守る中、管粥が炊かれ、粥の詰まり具合を太田貴能禰宜が確認していき



▲竹を割って粥の量を確認

逢坂八幡神社 管粥神事

ました。特産の梨やブロッコリーは一分、白ネギ、ハマチ、海藻は十分という結果となりました。また、農水産物全般を占う『大年(おとし)』の竹筒には八分の粥が入りました。

総代長を務める高見英毅さん（松河原）は、「今年の占いは、不作と豊作の差が極端に出たので驚いたが、大年が八分という結果にほっとした。これから、春の作業が本格的に始まるが、皆でいいものを作って豊作にしたい」と話されました。

ありがとうございました

福祉の向上に杖の寄贈

「小さな親切」運動山陰本部（代表・久保田一朗山陰合同銀行会長）から、歩行トレーニング用四点支持杖10本を寄贈していただきました。

2月1日に贈呈式があり、同行の尾原司常務から竹口町長へ贈呈書と目録が手渡されました。

この事業は、平成26年度から山陰両県内で公共施設利用者の安全性と利便性の向上と運動の浸透を図ることを目的として行われています。

寄贈していただいた杖は、福祉の向上に役立てていきます。



▲尾原常務(右)から贈呈書と目録が手渡されました



▲左：ケイ・ローズさん、右：桂木さん

桂木龍さん 「大山開山1300年 記念CD」を 寄贈していただきました

2月8日に、大山町出身の歌手・桂木龍さんが、中国吉林省出身の歌手ケイ・ローズさんと共に来庁され、大山開山1300年を記念して自らプロデュースされた楽曲のCD100枚を寄贈していただきました。

曲のタイトルは「伯耆の国 大山」。この曲は、今年3月に卒業する名和中学校の3年生が歌を担当しました。桂木さんの作詞で、大山への感謝の思いが込められています。

寄贈のCDは町内の各所に配布し、期間を通して1300年祭の盛り上げに活用させていただきます。